

図5.9 に工学系の学部長及び研究科の長の回答を示す。本質的に学長と差はないが、学長に比べて、「大学院への移行」が多い。

4 理工系修了者の製造業離れ

理工系学部修了者の製造業離れについては、単一の原因で卓越したものはない。処遇、理工学センス、専門能力などが挙げられている。
対処としては、工学系教育の拡充を挙げるものが最も多い。

理工系学部の修了者の製造業以外への就職が多く見られるようになってきた。大学院ではまだ顕著ではない。この原因及び対処の方法について回答を求めた。

原因については、次の選択肢からの選択を求めた。

- 01 製造業での処遇が悪い(処遇が悪い)。
- 02 偏差値による進学指導で、理工学を真に志望しないものが入学している(偏差値入学)。
- 03 若者が頭と手を動かすことが嫌うようになってきた(若者の志向)。

04 製造業以外にも、理工学の各専門分野の知識能力が必要になる機会が増えた(専門能力)。

05 製造業以外にも、理工学的センス(分析・設計能力)が必要になってきた(理工学的センス)。

06 製造業以外で、人不足から、分野に係わらず採用している(人不足)。

07 その他

理工系の学部等をもつ学長と学部長等の回答を図5.10に示す。なお、国公立と私立の間では差はない。学長の回答の筆頭は理工学的センスであり、学部長の回答の筆頭は製造業での処遇の悪さである。それ以外には差はない。

対処の方法について次の選択肢から選択を求めた。

- 01 理工系の教育は経費がかかる。教育の社会的負担の観点から、工学系修了者の製造業以外への就職は押えるとよい(就職抑制)。
- 02 時代の流れとして素直に受け取るべきである(時代の流れ)。
- 03 社会が理工系的になることを考えれば、むしろ望ましいことである(望ましい)。

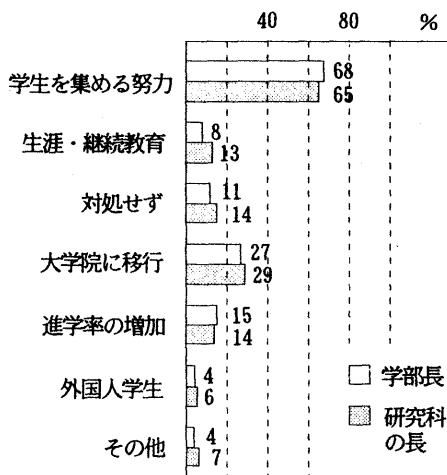


図 5.9 18才人口減少への対処
(学部長(107)、研究科の長(86))

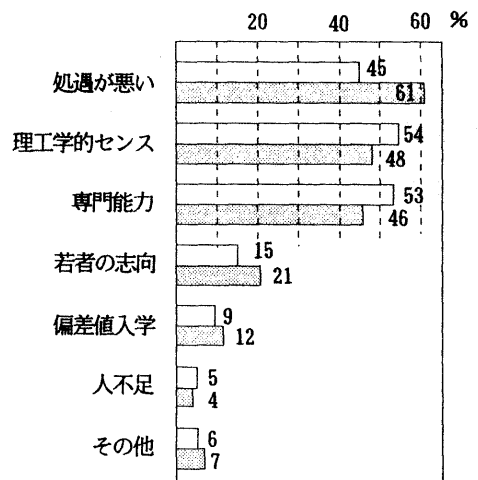


図 5.10 製造業離れの原因
(学長(103)、学部長(106))

04 工学系の教育を拡大する（工学系教育拡大）

05 理工系以外の学部においても、理工学的センスを養成するような教育を行う（センス教育）。

06 その他（自由意見）

工学系の学部等をもつ大学の学長と工学系学部長との回答には全く差がない。図5.11に学長の回答を示す。国公立と私立の間の顕著な差は、社会が理工系的になるので望ましいとするかどうかにある。望ましいとするものが私立に多い。これは学部長においても同様である。対処としては、工学系の教育拡充が最も多く、就職を抑制しようとするものはきわめて少ない。全体として、冷静かつ誠実に受け止めているといえる。

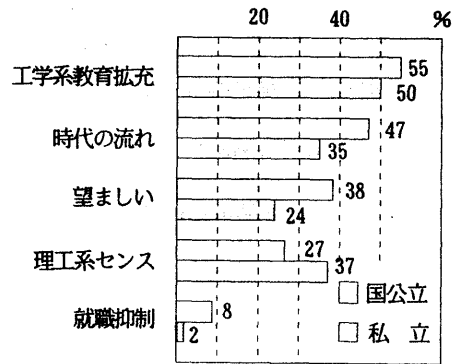


図 5.11 製造業離れへの対処
(学長、103大学)